

たいふく



地域福祉を推進する大分県社協 2013.3・4
大分社会福祉 No.171

<http://www.oitakensyakyo.jp/>



楽しい教室がいっぱい!!

**教室受講生
募集 2013**

詳しくは大分県身体障害者福祉センターまで



特集

明日の地域社会福祉を担う3,700名が集合!

第81回全国民生委員児童委員大会

Twitter

facebook

やっています。
ぜひ登録をお願いします。



この機関誌は、共同募金の配分を受けて発行しています。

- 企業ボランティア活動報告5
- 赤い羽根共同募金6
- 大分国際車いすマラソン大会に参加!7
- 県内初!避難所付き福祉施設7
- 善意銀行預託者8
- 今月のイチオシ!8
- 社会福祉施設等経営支援セミナーのお知らせ8

明日の地域福祉を担う 3,700名が集合!

全国から約3,700名の民生委員・児童委員が集い、「第81回全国民生委員児童委員大会」を10月18日・19日の両日、大分市・別府市で開催しました。

初日は別府ビーコンプラザで式典や特別講義を行い、翌日はテーマ別に分かれた活動交流集会を、別府市・大分市内10カ所の会場で実施しました。



高崎山が自然教育の場として子どもたちに伝えたいことは、生きること・生き抜くこと。そして、思いやって温

オープニングは、県内各地の盆踊りを紹介しながら参加者を迎えました。式典では、全国民生委員児童委員連合会会長、厚生労働大臣(代理)、全国社会福祉協議会会長あいさつに続き、広瀬勝貞大分県知事、釘宮大分市長、浜田別府市長から、郷土愛に満ちたユーモアあふれる歓迎あいさつをいただきました。

表彰式では、優良民児協や永年勤続功労など79民児協と2,135名の方々に栄えある賞状授与がありました。

その後、国立公園高崎山自然動物園元職員である松井猛氏による「サル社会から見える人間社会―サルの子育てに学ぶ―」の特別講演がありました。

松井氏は、野生サルの餌付けから自然動物園ができ、案内係として勤めた30年間を振り返るなかで、「二ホンザルは10頭以上で生活し、群れは血縁で結ばれた母系社会。お母さんやおばあちゃんを中心に、お互いが助け合いながら暮らしている。ボスザルはオスで、この一頭のオスにより群れが安定し、安心して餌が取れ、安定して暮らせる。安全を守るのがリーダーの役目であり、これはサルも人間も同じ。」

事例発表では、加藤氏から市役所内の委員のバックアップ体制について報告があり、谷野氏から、個人情報共有の取り組みと児童に対する見守り活動の取り組みについて報告、高山氏からは、民児協と地区内の関係団体との連携状況について報告がありました。

はじめに金井氏から、委員の役割として、ニーズをキャッチし様々な関係機関とのつなぎ役としての存在であってほしいとの期待と、活動をより多くの方々に知ってもらうための広報を活性化させる重要性について話がありました。

1 交流集会

活発な民生委員児童委員協議会運営と活動の強化

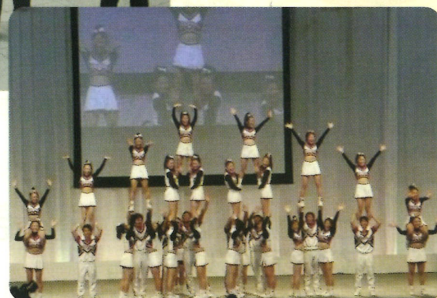
質疑応答後、最後に金井氏より、「名簿にあがってこない人の発見・支援をどうしていくか、また、顔の見える関係づくり、人脈作りを相談機関と連携して委員が行うことが大切である」とまとめがありました。

かい心で暮らす。この部分を、今私たちは、子どもたちにも社会全体にも広げていかなければならない。」と話されました。

その後、大分市民生委員有志62名による民生委員の歌「花咲く郷土」の合唱があり、引き続きの歓迎アトラクションでは、日本文理大学のチアリーディング「ブレーブス」が、若さあふれる演技全開で県外参加者を歓迎し、会場は盛大な拍手で包まれました。

2日目は、それぞれのテーマに沿った熱い議論が繰り広げられました。

(以下、「民生委員・児童委員」を「委員」と表記します)



【コーディネーター】

金井 敏氏(高崎健康福祉大学教授)

【事例発表者】

加藤 勝幸氏(大分市民児協副会長)

谷野 正昭氏(山口県周南市福川地区民児協 民生委員・児童委員)

高山 学氏(岡山県岡山市中区竜之口地区民児協会長)

② 交流集会

高齢者の安心・安全な生活を守る活動の推進

はじめに蛇江氏より、今日の生活・福祉課題と支援の課題について講演があり、生活スタイルや価値観の多様化などによる人間関係の構築力低下の問題と生活・福祉課題の潜在化について説明がありました。

事例発表では、井上氏より中津市緊急医療情報キット事業の概要と活用による早期発見・対応ができたという報告、佐藤氏からは、行政や社協、自治会、消防団等と連携したふれあい訪問事業について説明があり、羽室氏より、熊本見守

り応援隊協定について、見守り模擬訓練の事例の説明がありました。

質疑応答後、蛇江氏より、「良い事例を参考にしながら各地域のスタイルに合わせて今後の活動に活かしていただきたい」とまとめがありました。

【コーディネーター】

蛇江 紀雄氏(広島県廿日市社会福祉協議会会長
元・広島文教女子大学教授)

【事例発表者】

井上 玲吉氏(中津市今津校区民児協前会長)
佐藤 雄 氏(埼玉県三郷市民児協会長)
羽室 アツミ氏(熊本県上天草市民児協連会長)

③ 交流集会

高齢者等の孤立・孤独防止活動の推進

はじめに市川氏から、孤立死防止には、つながりのある地域社会を社協等と連携して作っていくことが大事。特に「居場所」を作っていくこと、また、委員自身も孤立しないよう「地域に散らばるアンテナ」となり「協働」して孤立防止に取り組むことが大事であると説明がありました。

事例発表では木村氏より、朝起きたら軒先に旗をたて、全世帯の安否確認を行う「黄色い旗運動」の取り組みについて、福本氏からは、今年発生した「高齢者母娘死亡事例」に関わった委員の苦悩や、行政等との役割分担など安否確認方法の改善策の報告、松尾氏からは、

市と民児協で共同して取り組んでいる「災害時要援護者台帳整備事業」について、実際に台帳が活かされ孤独死の未然防止につながったという報告がありました。

最後に市川氏より、「受け止めてつなぐ役割の大切さと、子供たちや若者に地域の絆と希望を再生し、お互いに支えあうことを伝えていきましよう」とまとめがありました。

【コーディネーター】

市川 一宏氏(ルーテル学院大学学長)

【事例発表者】

木村 トモ子氏(国東市国見地区民児協 民生委員・児童委員)
福本 行廣氏(東京都立川市民児協会長)
松尾 龍人氏(福岡県福岡市中央区民児協会長)

④ 交流集会

生活困窮世帯の支援活動の推進

はじめに新保氏より、委員は当事者の一番の理解者として、励まし・見守りを続けていくことが大切であり、委員だからこそできる「強み」を再確認してほしいと話がありました。

パネリストからは、森山氏より、日常生活自立支援事業における支援事例をもとに、生活困窮者やニーズの把握のため、地域包括支援センターや社協など関係機関・団体との連携・協働の重要性について、杉谷氏からは、家族それぞれが課題を抱えている世帯への支援など困難事例については、社協や行政とスムーズに連携できる組織体制の強化が必要

と話がありました。片岡氏からは、大阪府社協における「生活困窮者レスキュー事業」の取り組みと、この事業で委員と連携した事例の報告がありました。

最後に、参加者全員で①今後取り組みたいこと②考えてみたいことを付箋紙にまとめ、隣同士で交換をし、まとめました。

【コーディネーター】

新保 美香氏(明治学院大学教授)

【パネリスト】

森山 恵氏(日田市若宮地区民児協会長)
杉谷 昌男氏(島根県出雲市斐川地区民児協 民生委員・児童委員)
片岡 哲司氏(大阪府社会福祉協議会 社会貢献推進室室長)



⑤ 交流集会

災害時要援護者支援活動の推進

山崎氏から、災害時要援護者の定義について確認し、個人情報情報の取り扱いについて個人の権利利益の保護に配慮しつつ、災害時には民生委員がソーシャルワーカーのような役割を果たすことが重要と説明がありました。

パネリストの福田氏から、平成24年7月の大分県豪雨災害で、竹田市民児協と災害ボランティアセンターとの関わりから感じた連携の重要性の紹介、大山氏からは、行政と協力した緊急医療キット配布についての報告、大前氏は、紀伊半島大水害の経験から、「災害時一人も見逃さない運動」へつなぐことの説明、北川氏から東日本大震災から現在の復興に向けた取

り組みと、マニュアル外(想定外)対応の視点が大事であるとの課題提起がありました。

最後に山崎氏より、「今後の災害対応として、安否確認の方法、行政との個人情報共有の整理しておくべき。また、広域避難者への継続した支援にも関心を持ってほしい」とまとめがありました。

【コーディネーター】

山崎 栄一氏(大分大学准教授)

【パネリスト】

福田 光明氏(竹田市民児協会長)

大山 直氏(別府市亀川地区民児協会長)

大前 嘉助氏(歌山県新宮市民児協会長)

北川 進氏(宮城県石巻市社協災害復興支援対策課
ささえあい総括支援センター所長)

⑥ 交流集会

子どもを守り育てる地域活動の推進

最初に松田氏より、核家族では子育ての見本となる祖父母らが身近にいないので、委員が身近な場所での役割を担うこと、子育てを支えるネットワークが必要と課題整理がありました。

事例発表の東氏から、「おめでとう訪問事業」をきっかけに、一組の親子に各関係機関・団体が関わり、互いに顔見知りになることで情報共有ができ、きめ細かな支援につながったと報告があり、見川氏からは、課題を見つけたら解決に向けて関係者で話し合う「場」をサロン活動に発展させた取り組みと、子育て家庭のための「子育て防災マップ」づくりの紹介、小坂

氏からは、登下校時の見守り、算数まるつけ隊、校庭に花咲かせ隊など、自分のできることで学校と交流することにより子どもたちに支えられ、元気をもらっているとの報告がありました。

最後に松田氏より、「日本に生まれた大切な命をどう守り育てるか。地域の特性を活かした活動をこれからも期待する」とエールがありました。

【コーディネーター】

松田 順子(東九州短期大学教授)

【事例発表者】

東 雅子氏(佐伯市民児協主任児童委員)

見川 登美子氏(広島県三原市民児協連
児童福祉部会副部会長)

小坂 防人氏(長崎県時津町民児協会長)

⑦ 交流集会

課題を抱える子ども・子育て家庭の支援活動の推進

最初に松原氏から、課題を抱える子ども、子育て家庭を「問題児」「問題家庭」と排除せず、地域社会に包摂していくことが必要であり、子どもや子育て家族への支援は、地域社会づくりの促進につながると話がありました。

事例では、渡邊氏から、1歳半検診未受診家庭の訪問や子育てサロンなど、乳幼児期からの支援活動や料理教室、不登校児への支援について、井上氏からは、地区の「子どもあゆむ会」で委員が担っている役割や児童虐待などの家庭支援の実践について、中野氏からは、学校と連携した活動を展開するにあたり、活動指針を掲げ、スクールソーシャルワーカー

との協働で、不登校等に継続した家庭支援を実践している発表がありました。

松原氏より、「委員は、子どもたちの地域での生活状況が分かるため貢献できることも大きい。実践事例の継承と発展を図りながら、子どもや子育て家庭が安心して暮らせる地域づくりを進めてほしい」とまとめがありました。

【コーディネーター】

松原 康雄氏(明治学院大学教授)

【事例発表者】

渡邊 麻里子氏(白杵市野津地区民児協会長)

井上 和江氏(高知県佐川町民児協主任児童委員)

中野 紘子氏(沖縄県浦添市第3民児協会長)

⑧ 交流集会

障がい者の自立支援、社会参加支援活動の推進

事例発表では、板井氏から「地域内にある知的障がい者施設の各種行事に地域の各団体や民児協が積極的に参加し交流を深め、また、施設の運営に自治会や民児協が積極的に参画している」と報告があり、座覇氏から「組織内に障がい者福祉部会を設置し、事例検討や交流会を通して、お互いが身近な住民として気軽に声かけできるようになった。今後も交流の場を広げ、関係機関と連携し、在宅福祉の充実強化を推進したい」との発表がありました。

三上氏からは「札幌市知的障がい者見守り事業」について、現況調査や民生委員へのアンケート実施、具体的な実施マニユ

アル作成、障がい者も参加した研修会の開催について報告がありました。

コーディネーターの亀山氏より「地域で安全で安心して暮らせる工夫をすること、障がいも様々あり、個別的支援や家族への支援が重要であること、障がいを理解するための学習が必要」とまとめがありました。

【コーディネーター】

亀山 幸吉氏(淑徳短期大学教授)

【パネリスト】

板井 美智男氏(大分市吉野校区民児協会長)

座覇 和子氏(沖縄県名護市第4民児協会長)

三上 高男氏(札幌市民児協理事、
札幌市中央区民児協会長)

⑨ 交流集会

小規模集落(過疎集落)における支援活動の推進

はじめにコーディネーターの衣笠氏から、小規模集落では「生活インフラの基盤整備」と「住民同士の相互交流」が求められており、委員の役割は住民それぞれの社会関係の媒介にあると説明がありました。

事例発表では、望月氏から、グリーンツーリズム(農村民泊・体験学習等)での地域おこしの取り組みを中心に、関係機関とネットワークを組み、地域全体の活性化を図っていく活動について、和田氏からは、コミュニティサロンの活動で、見守り協定と情報共有による認知症高齢者等を支援するネットワークづくりについて、元野氏からは、小規

模集落化の激しい離島で、「結の精神」(連帯と共助)に基づいた小地域ネットワーク活動などについて報告がありました。

最後に衣笠氏より「住民と一緒に考え、住民が持っている可能性に焦点を当てた活動を展開していくことや、支え合う関係の中で、ともに暮らしていくことが大切」とまとめがありました。

【コーディネーター】
衣笠 一茂氏(大分大学教授)

【事例発表者】
望月 和彦氏(宇佐市安心院地区民児協会長)
和田 富雄氏(高知県土佐町民児協会長)
元野 濱子氏(鹿児島県奄美市民児協会長)

⑩ 交流集会

地域福祉推進に取り組みやすい環境づくり活動の推進

コーディネーターの上野谷氏から「様々な地域格差が広がる中、専門職の養成が社会の要請に答えきれなくなっている。住み慣れた地域で社会関係を保ち、誰もが自分らしく生活できる社会づくりを」との話がありました。

パネリストの山添氏から「地域の実状を踏まえた、市社協・地区社協・民児協の役割分担の明確化やネットワーク、実践活動の成果と検証」に関して、岩田氏から「地区民児協と地区社協との連携による高齢者の見守り支援などの報告や、事例をもとに相談解決への流れ」について、小川氏からは「孤立死の検証による北九

州市の事業の紹介を通じて、住民と関係機関・団体が一体となる仕組みの必要性」について、それぞれ発表がありました。

最後に上野谷氏より「地域福祉活動の立ち位置を明確にして、行政や社協とともに、対話(会議と学び(研修))によって住民理解を高め、ネットワーク強化を」とまとめがありました。

【コーディネーター】
上野谷 加代子氏(同志社大学大学院教授)

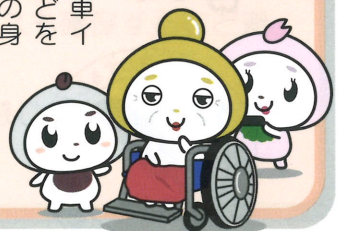
【パネリスト】
山添 義昭氏(津久見市民児協副会長)
岩田 秀樹氏(愛媛県松山市清水地区民児協会長)
小川 守盛氏(福岡県北九州市民児協会長)

企業ボランティア活動報告 (株)損害保険ジャパン大分支店

(株)損保ジャパン大分支店では、平成22年より年に1度、社会貢献活動の一環で、車イス清掃を行っています。昨年の9月8日(土)、大分県身体障害者福祉センターにて24年度の活動を実施しました。今回は、大分県内各地からグループの社員60名ほどが集まりました。

この日、センターの体育館では、大分県障害者社会参加推進センター主催の「卓球バレー大会」が開催されており、選手や応援者の車イス、センターを利用されている方の車イスなど合わせて40台ほどを大切に清掃し、利用者の方々に大変喜ばれていました。また、大分市社会福祉協議会にも出張し、貸出車イス約60台の清掃を行いました。

今後は、県内各地域で車イスを利用している施設などを訪問するなど、自分たちの身近な地域に暮らす人たちとの出会いを通じて、何かを感じるような活動にも期待しています。



じぶんの町を良くするしくみ。

赤い羽根共同募金

『赤い羽根共同募金』は災害時のボランティア活動をまもっています

皆様からお寄せいただいた赤い羽根共同募金は、地域の様々な福祉活動を支えています。災害時のボランティア活動にも役立っています。

平成7年に起こった阪神淡路大震災の経験をもとに、平成12年に社会福祉法が改正され、全国の共同募金会は「災害等準備金」を積み立てて、大災害が起こった際の支援に充てるため、県境を越えてこの準備金を拠出することができるようになりました。大分県共同募金会では、この法律に基づき毎年共同募金総額の3%を3年間「災害等準備金」として積み立てて、大規模災害に備えています。

平成23年3月に発生した東日本大震災では、被災県を中心に約100か所の災害ボランティアセンターが設置されましたが、その活動資金として全国の共同募金会がそれぞれの「災害等準備金」を取り崩し、8億1千8百万円を助成しました(大分県共同募金会拠出額960万円)。

また、平成24年7月に発生した大分県の豪雨災害に当たっても、本県共同募金会ではこの積立金により、被災地の日田市、中津市及び竹田市3市の社会福祉協議会が立ち上げた4ヶ所の災害ボランティアセンターの設置・運営費として約1,212万円を助成しました。

この「災害等準備金」は、被災家屋の土砂の除去・片づけなどのボランティア活動の拠点となる災害ボランティアセンターの設置・運営費として使われ、災害により不自由な生活を強いられている被災者の方々が、一日も早く安心して暮らせる生活を取り戻すことができました。

今後とも、赤い羽根共同募金に皆様の変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

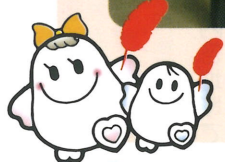
中津市社会福祉協議会災害支援本部
に対して助成しました。
(永松会長から新貝市長に決定書交付)



日田市災害ボランティアセンター



竹田市災害ボランティアセンター



社会福祉法人 大分県共同募金会

〒870-0907 大分市大手町2-1-41 総合社会福祉会館内
ホームページ <http://www.oita-akaihane.or.jp/>
TEL 097-552-2371 FAX 097-552-6250



ボランティア活動報告

「大分国際車いすマラソン大会」に参加!



昨年10月28日(日)第32回大分国際車いすマラソン大会にて、交通整理などの運営ボランティアに参加しました。

今回は、高校生から70代の方まで総勢20名が参加しました。初参加の方が多く、はじめは緊張していましたが、和気あいあいと楽しんで活動していました。

大分県ボランティア・市民活動センターは、一般の方の参加ができる唯一の機関となっています。次回大会でも、たくさんの方に参加していただき、多くの感動を一緒に感じてもらいたいです。

お問い合わせ先

大分県ボランティア・
市民活動センター
TEL 097-558-3373



県内初! 避難所付き福祉施設

—施設利用者、職員、地域住民の安心・安全のため—

佐伯市の社会福祉法人長陽会(御手洗吉生理事長)は、大地震や津波に備え、平成25年12月の完成をめざして、避難所を備えたサービス付き高齢者住宅を建設します。この建物は5階建てとなり、5階部分(約面積1,000㎡・海面からの高さ16.55m)を災害時の避難スペースに活用します。350人を超える人員を収容できるホールや和室の他、この人数が1週間生活できる食料や飲料水を備蓄する計画です。屋上には、発電機、燃料、配電盤や事務機器等のバックアップ装置を置くなど、過去の災害での水害、水没等の教訓を活かすように配慮しています。また、避難所ではトイレが常に課題となることから、災害時でも水が流せるように設計しているのが特徴。さらに、非常時に対応する職員が仮眠できるスペースも確保するなど避難者や支援側にも配慮がなされています。

御手洗理事長は、東日本大震災後、まもなく被災地を訪問し、津波被害の甚大さを感じ、この建設を計画しました。県内で初となる避難付き施設、全国的にも珍しい取り組みとなります。

善意銀行預託者 (9～12月)

- (株)三洋アルミ
- 大分県商工労働部
- 小村一寿
- 自治労大分県本部退職者会
- 大分県設備設計事務所協会
- 大分教区仏教婦人会連盟
- 聖公幼稚園
- 公益社団法人 大分県作業療法協会
- 豊和銀行従業員組合
- 城東保育園
- 大分ヤクルト販売(株)
- 生協コープ かごしま
- 株式会社マルショク
- 大分県農業共済組合連合会
- 財団法人 大分県文化スポーツ振興財団
- 兼子厚子
- 大分フットボールクラブ (敬称略)



いただいた金銭・物品は、社会福祉施設や各種社会福祉活動に活用し、また、指定があった事業等に活用しています。ご協力ありがとうございました。

今月のイチオシ!

焼き菓子

「ケーキ&クッキー」

いきいきランドの菓子工房では、ケーキやクッキーを作っています。ケーキは、パウンドケーキ・カップケーキ・マドレーヌ・シフォンなど種類も多くいろいろな味を楽しめます。クッキーもたくさんの種類があり、昔ながらの素朴な味として「うずまきクッキー」が人気です!!

新商品の開発にも楽しみながら日々取り組んでいて、一つ一つ心を込めて笑顔で作っています。

“Face to face”をモットーに、いろんな販売先で販売を行っています。また商品は、三芳生協、すぎのごショップなど、市内数か所でも販売しています。

* ケーキ

各種100円～

* クッキー

各種200円

その他にも商品がありますので、ぜひお問合せください。



お問い合わせご注文は

いきいきランド

〒877-0077 大分県日田市大字友田字田中516-2
TEL (0973)22-1295 FAX (0973)22-6080
E-mail: ikiiki@jasmine.ocn.ne.jp

平成25年度 大分県社会福祉施設等経営支援セミナーのご案内

社会福祉施設等の役職員の方々を対象に、テーマ別セミナーを10回開催します。

平成25年度も6月から新たなメニューを加え、下記のとおり開催します。

詳細については、今後開催要綱等を各法人等宛にご案内するとともに、大分県社会福祉協議会のホームページにも掲載しますので、ご確認の上、ぜひご参加ください。(1回ひとりの参加費 会員4,000円、会員外6,000円)

効果的な部下・新人育成の実務研修会

期日 平成25年6月12日(水)

利用者様満足(CS)向上研修会

期日 平成25年7月10日(水)

職場内研修の手法研修会

期日 平成25年8月21日(水)

プロ意識醸成研修会～仕事の意欲向上の為に～

期日 平成25年9月18日(水)

クレーム対応研修会

期日 平成25年10月30日(水)

知って得する! ITを活用した業務改善
～顧客満足度のアップと生産性アップ～

期日 平成25年11月13日(水)

論理的思考力向上研修会

期日 平成25年12月4日(水)

権利擁護とリスクマネジメント研修

期日 平成26年1月15日(水)

財務管理研修会

期日 平成26年2月5日(水)

業務改善研修会～応用編～

期日 平成26年3月5日(水)

個人・法人の
レベルアップ
間違いなしじゃ!



問合せ先

大分県社会福祉協議会 施設団体支援部団体支援課

TEL 097-558-0300(代表)
FAX 097-558-6001